

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	宮崎 奈津子 (伊丹小学校)	北畑 早貴 (伊丹小学校)
	高階 美月 (稲野小学校)	笠谷 はるか (南小学校)
	石川 美由紀 (南小学校)	安部 梓 (神津小学校)
	中谷 孝子 (緑丘小学校)	福井 千栄 (桜台小学校)
B班グループ員：	富岡 美佐子 (天神川小学校)	衣笠 和子 (天神川小学校)
	大森 明美 (笹原小学校)	岡本 尚美 (笹原小学校)
	篠崎 葉子 (瑞穂小学校)	服部 寛子 (有岡小学校)
	藤瀬 七重 (伊丹特別支援学校)	上杉 梓 (伊丹特別支援学校)
	榎本 利美 (伊丹特別支援学校)	
C班グループ員：	升井 嘉澄 (花里小学校)	片山 美奈 (昆陽里小学校)
	内藤 久理子 (撰陽小学校)	高吉 有紀子 (鈴原小学校)
	小林 理加 (荻野小学校)	大西 郁美 (池尻小学校)
	松田 弥生 (鴻池小学校)	
D班グループ員：	小山 真由子 (東中学校)	村田 成江 (西中学校)
	フォス 智恵美 (南中学校)	田中 淑子 (北中学校)
	村井 仁美 (天王寺川中学校)	大久保 佑紀 (天王寺川中学校)
	鶴川 由佳子 (松崎中学校)	大村 由布子 (荒牧中学校)
	大下 由貴 (笹原中学校)	山中 美里 (伊丹高等学校)
	岩崎 好美 (伊丹高等学校)	

担当指導主事：増田 朋之

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 感染症 足育 救急体制

1 研究テーマ

「養護教諭の役割と機能を考える」

2 研究内容

(1) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会、伊丹市健康診断検討委員会、伊丹市アレルギー対策委員会の協議事項や連絡事項について共通理解を図った。

また、健康相談活動、健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(2) 班別研究

① A班 (小学校)

ア 研究テーマ：「感染症対策 ―嘔吐物の処理方法について―」

～見てわかる研修用ビデオの作成～

イ 内容

ノロウイルス等による感染性胃腸炎は、1年を通して発生しているため、新年度が始まる4月当初から正しい嘔吐物の処理方法を身に付けておくことは感染拡大を防ぐために必要である。学校現場では、毎年新しい職員が増え、また、消毒液の濃度についても見直しが必要なことから、正しく対応できるよう研修用ビデオの作成に取り組んだ。

ウ 成果

消毒液の濃度について見直し、確認することができた。また、実際に演じたことにより、嘔吐物の処理セットは、準備の段階から使いやすくセットしておくことが必要だと再認識した。

② B班(小学校・特別支援学校)

ア 研究テーマ:「宿泊行事前の To Do List 作成」

イ 内容

宿泊行事を安全・安心に実施するには事前の準備が大切になるが、多忙な健診実施時期と重なるため十分にできない現状があった。それをふまえて宿泊時の健康に関する情報収集や健康管理の問題点などを話し合い、大切な内容が抜けないように担任用・養護教諭用 To Do List を検討した。また事前の健康調査票を検討・作成し、アレルギー・ぜん息・てんかんなどの健康管理上、特に配慮が必要な児童について、担任用 To Do List と連動できるように保護者文書も検討することにした。

ウ 成果

情報交換や各校で使用している書類等を比較・検討し意見交換を行う中で研修が深まった。また、職員や保護者、医療機関と連携しながら、事前に健康面の情報収集や対応について共通理解を図るための書類と To Do List の作成ができた。

③ C班(小学校)

ア 研究テーマ:「足元から考える子どもたちの健康」

イ 内容

(ア) 足に関するアンケート調査、フットプリンターによる足裏計測、簡易足計測器による足幅計測と靴の適合調査の結果から、子どもの足の現状を分析した。

(イ) 各校で、足育の保健指導を保護者参観として行ったり、児童保健委員会活動で取り組みをすすめたりした。また、学校保健委員会や保健だより、掲示物による啓発などを行った。

ウ 成果

(ア) アンケート調査や足の計測から子どもの足の実態を把握し、保健指導等に活かすことができた。

(イ) 子どもや保護者が、足の健康について考え、靴の選び方や生活の仕方、運動等を見直すきっかけとなった。

④ D班(中学校・高等学校)

ア 研究テーマ:「災害発生時の救急体制について」～養護教諭の役割と救護班の動きから～

イ 内容

(ア) 各校の防災マニュアルと救護班の役割や動き、構成人数等の確認

(イ) 大阪府北部の地震発生時の各校の対応について情報共有(当日代休6校/D班9校中)

(ウ) 災害発生時の救急体制について検討

(エ) 災害発生時の救急体制について資料作成

ウ 成果

(ア) 実体験を振り返りながら検討することで、災害発生時の養護教諭の役割、防災マニュアルにおける救護班の役割や動き等について、より具体的に考えることができた。

(イ) 大規模災害発生時には、チームとして行動することの重要性を再認識した。迅速に対応するために、必要物品等の検討やフローチャート、各種記録カード等を作成したことで、イメージトレーニングすることができ、災害発生時に対する意識も高まった。

(3) 夏季研修会

日時 7月26日(木) 13:30~15:30

内容 講演 演題 「子どもの理解と子どもへの関わり方

～フラれることも嫌われることもあるさ～

講師 臨床心理士 竹下 三隆 先生

(4) 伊丹市養護教諭研究協議会

日時 2月26日(火) 13:30~16:45

内容 研究経過報告

講演 演題 「てんかん当事者の悩みと支援のあり方について」

講師 小出内科神経科 小出 泰道 先生

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 全体会では、情報交換を通し課題の共通理解をすることで、各学校で適切に対応していくことができた。健康診断の実施方法について各校の実態を踏まえた意見交換を行ったことで、子どもたちの人権にも配慮した健康診断が進められるよう、準備検討を進めていくことができた。
- ② 班別研究では、救急処置・保健管理・保健指導の観点から、養護教諭の専門性を活かした取り組みができた。
- ③ 研究協議会を開催することにより校種を超えて問題意識を共有し、さらに研究を深めることができた。
- ④ 講演会では、子ども理解においてどう視点をおくか、視点の置き方を学び、子ども理解を深めるとともに、保健室における支援に活かすことができた。

(2) 課題

- ① 市内小中学校において、えがお NET で保健室に係るデータ管理を行うことが可能にはなったが、従来の伊丹における様式とどう兼ねあわせていくか検討課題は多い。今後も有効にデータ活用をすることができるように検討していく必要がある。
- ② 研究で取り組んだ内容について、家庭や関係機関との連携や、校内体制を整備する必要がある。時代の流れとともに変化する児童・生徒の健康課題を的確に把握し、柔軟に対応していくことができるよう研修・研究をすすめながら実践を重ね、養護教諭としての力量を高めていきたい。